

神戸大学学報

No. 468

1995.9 庶務部庶務課発行



昭和初期の山岳部

目次	
◇学内ニュース	2
◦ 高校生への神戸大学説明会の開催	
◦ 第11回理学部公開講座の実施	
◦ ワシントン大学副学長補佐の来学	
◦ アイルランガ大学長一行の来学	
◦ 第26回神戸大学公開講座の受講申込受付結果	
◇学内規則	4
◇人事	5
◦ 異動 ◦ 研修 ◦ 海外渡航	
◇学事	12
◦ 平成7年度文部省在外研究員派遣予定者の決定 (追加)	
◇掲示板	17
◦ 職員の住所変更等	
◦ 日誌	
◇神戸大学100年史編集室だより	18

学内ニュース

◇高校生への神戸大学説明会の開催

高校生への大学説明会が、7月24日（月）から8月4日（金）の間、各学部において開催されました。

これは、大学の情報を提供し、受験生に大学選択の参考となるよう、昭和62年度から実施しているものです。

今年度は、主に兵庫県・大阪府・京都府下の3年生を対象として、各学部ごとに日程を設定して実施し、全学部で約1,100名の参加がありました。

説明会は、大学及び学部の概要・特色・授業、学生生活、そして平成8年度入試についての説明・質疑応答のあと、大学構内、実験室等の見学が実施されました。

—入試課—

◇第11回理学部公開講座の実施

理学部では8月7日から8月9日まで「地球科学の新しい流れ—地震・大陸変形—」をテーマに、理科系の高等学校教員を対象として公開講座を開講しました。

本講座では、沈み込み帯や大陸そして日本列島でおこる地球表面の変動の様子がどのように研究され、どこまで明らかにされたかをわかりやすい形で解説しました。

受講者は、熱心に受講され、講義後の質疑応答も活発に行われました。

なお、受講した54名全員に修了証書を授与しました。

—理学部—

◇ワシントン大学副大学長補佐の来学

8月10日（木）午後3時40分にワシントン大学（アメリカ合衆国）のKimberly Hughes 副大学長補佐が西塚学長を表敬訪問されました。

同補佐は、学生交流、短期留学及び学術交流等に関する意見交換のため来学されたもので、学長室での懇談では、新家国際交流委員会委員長（農学部教授）、濱田法学部教授、西出留学生センター教授及び国際交流担当課長が同席しました。



—国際交流課—

◇アイルラング大学長一行の来学

8月25日（金）午後2時にアイルラング大学（インドネシア）Bambang Rahino学長及びYoes Prijatan Dachlan 同大学熱帯医学研究センター長が西塚学長を表敬訪問されました。

一行は、日本学術振興会事業「大型共同研究方式」による学術交流についての打合わせ等のため来日されたもので、学長室での懇談では、佐藤医学研究国際交流センター長及び行田事務局長が同席しました。



—国際交流課—

◇第26回神戸大学公開講座の受講申込受付結果

本年度で26回目を迎えるこの講座は、9月2日（土）に開講し、10月28日（土）までの、9月23日（祝）を除く毎週土曜日の8日間にわたり、16講義を行います。

受講者数は、309人（男性245人、女性64人）で、最高齢者は83歳、最年少者は22歳となっております。

第26回 神戸大学公開講座受講者構成

年齢別構成		職業別構成	
10歳代	0	会社員	74
20歳代	13	公務員	60
30歳代	19	教員	5
40歳代	50	自営業	24
50歳代	61	主婦	25
60歳代	81	学生	2
70歳代	67	無職	91
80歳代	11	その他	13
白紙	7	白紙	15
合計	309人	合計	309人

—庶務課—



学 内 規 則

◇神戸大学発達科学部規則の一部を改正する規則 (平成7年8月17日制定)

改正要点

授業科目を整備したこと。

神戸大学発達科学部規則の一部を改正する規則

神戸大学発達科学部規則(平成4年9月30日制定)の一部を次のように改正する。

別表第1 イ 本学部共通の表中

その他必要と認める科目	人権Ⅰ	2	
	人権Ⅱ	2	
	総合教養科目Ⅰ		その都度定める。
	総合教養科目Ⅱ		その都度定める。

を

その他必要と認める科目	人権Ⅰ	2	
	人権Ⅱ	2	
	総合教養科目Ⅰ		その都度定める。
	総合教養科目Ⅱ		その都度定める。
	総合教養科目Ⅲ	2	
	総合教養科目Ⅳ	2	
	総合教養科目Ⅴ	2	
	総合教養科目Ⅵ	2	
	総合教養科目Ⅶ	2	

に改める。

附 則

この規則は、平成7年8月17日から施行し、改正後の神戸大学発達科学部規則の規定は、平成7年4月1日から適用する。

◇神戸大学理学部規則の一部を改正する規則 (平成7年8月17日制定)

改正要点

授業科目を整備したこと。

神戸大学理学部規則の一部を改正する規則

神戸大学理学部規則(平成5年4月22日制定)の一部を次のように改正する。

別表第1 イ 本学部共通の表その他必要と認める科目の欄中

総合教養科目Ⅰ	その都度定める。
総合教養科目Ⅱ	

を

総合教養科目Ⅰ		その都度定める。
総合教養科目Ⅱ		その都度定める。
総合教養科目Ⅲ	2	
総合教養科目Ⅳ	2	
総合教養科目Ⅴ	2	
総合教養科目Ⅵ	2	
総合教養科目Ⅶ	2	

に改める。

附 則

この規則は、平成7年8月17日から施行し、改正後の神戸大学理学部規則の規定は、平成7年4月1日から適用する。

◇神戸大学農学部規則の一部を改正する規則 (平成7年8月17日制定)

改正要点

授業科目を整備したこと。

神戸大学農学部規則の一部を改正する規則
神戸大学農学部規則(平成5年4月22日制定)の一部を次のように改正する。

別表第1 イ 本学部共通の表その他必要と認める科目の欄中

総合教養科目Ⅱ	その都度定める。
---------	----------

を

総合教養科目Ⅱ		その都度定める。
総合教養科目Ⅲ	2	
総合教養科目Ⅳ	2	
総合教養科目Ⅴ	2	
総合教養科目Ⅵ	2	
総合教養科目Ⅶ	2	

に改める。

附 則

この規則は、平成7年8月17日から施行し、改正後の神戸大学農学部規則の規定は、平成7年4月1日から適用する。

人 事

◇異動

所属部局 官 職	氏 名	発令 月 日	異 動 内 容 (異動前の所属官職)
事 務 局 [庶務部] (人事課) 文部事務官	平 山 克 也	8.31	併任終了(大阪大学経理部情報処理課)
学 生 部 (厚生課) 事務補佐員	島 谷 知加子 南 佳 子	8.31 9. 1	辞職(事務補佐員) 採用
発達科学部 教 授 助 授 "	村 上 さとみ 吉 田 圭 吾 伊 藤 真 之	9. 1 " "	昇任(助教授) " (講師) " (宇宙科学研究所宇宙圏研究系助手)
(附属住吉小学校) 校 長	東 山 明	"	併任(教授)
(附属住吉中学校) 校 長	東 山 明	"	" (")
経営学部 大 池 晴 子 網 野 百合恵	8.31 "	辞職(事務補佐員) " (")	
事務補佐員 "	吉 田 浩 子 末 陰 園 子	9. 1 "	採用 "
理 学 部 生物学科長 教 授 "	磯 野 克 己 湯 木 昭八郎 大 石 陸 生	9. 1 " 8.16	併任(教授) 併任解除(生物学科長) 昇任(助教授)
医 学 部 教 授	岩 崎 安 伸 久 野 高 義	8.31 9. 1	辞職(助手) 昇任(助教授)

講 師 助 授 助 手 " " " (管理課) 事務補佐員 " "	堀 川 達 弥 丸 尾 猛 伊 藤 正 恵 上 野 康 一 藤 澤 久美子 間 嶋 香緒利 松 本 麻 以 原 尚 子 安 水 万 里	9. 1 " " " " " " " " "	昇任(助手) 配置換(医学部附属病院助教授) 復職 採用 " 8月31日限り退職(事務補佐員) 採用 " "
医 学 部 附 属 病 院 講 師 助 手 (看護部) 看 護 婦 技 術 補 佐 員	岩 崎 茂 典 松 尾 博 哉 田 中 究 呉 俊 川 原 かおり 宮 本 愛 子 宮 本 愛 子 杉 本 裕 子	9. 1 " " 8.15 " 8.16 "	休職(助手) 配置換(医学部講師) 採用 辞職(看護婦) " (") 辞職(技術補佐員) 臨時的任用 採用
工 学 部 教 授 " 助 授 " 文部事務官 教 務 職 員 大学院国際協力研究科 教 授	重 村 力 鶴 谷 滋 沼 昌 宏 澤 奈津子 磯 崎 公 代 小 柴 康 子 池 添 恵 豊 田 利 久	8.16 " 9. 1 8.16 " " " " 8.15	昇任(助教授) " (") " (大学院自然科学研究科講師) 8月15日限り任期満了退職(文部事務官) 復職(育児休業) 育児休業(教務職員) 臨時的任用 免(研究科長事務代理)

◇研修

*平成7年度図書館等職員著作権実務講習会

期 間 平成7年8月23日～8月25日

会 場 岡山大学大学院自然科学研究科会議室

主 催 文化庁

参加者 附属図書館情報管理課情報管理第三掛 菊池 一長



◇海外渡航

所 属	職 名	氏 名	渡 航 先	渡 航 目 的	渡航期間	備 考
文 学 部	教 授	濱田 正美	中華人民共和国	モンゴルにおける民族形成の歴史民族学的研究調査	7. 8. 2 7. 8.31	出 張
"	"	松嶋 隆二	カナダ	国際グラフォノミックス学会第7回大会出席及び心理学に関する資料収集	7. 8. 3 7. 8.15	研 修
"	助教授	渥美 公秀	アメリカ合衆国	アメリカにおける公的防災組織及び民間ボランティア・コーディネーターに対するインタビュー調査並びに社会心理学に関する資料収集	7. 8. 7 7. 8.21	"
"	教 授	山本 道雄	ドイツ	カント哲学研究のための資料収集	7. 8.22 7. 9.11	"
国際文化学 部	"	風呂本武敏	アイルランド	第36回W.B. イエイツ国際夏期セミナー出席	7. 8. 3 7. 8.19	"
"	"	横尾 能範	カナダ オーストラリア	豪州の文化系学部における情報処理教育の動向調査	7. 8. 5 7.10. 4	出 張
"	"	安井 三吉	中華人民共和国	中国抗日戦争勝利50周年記念国際シンポジウム出席	7. 8.14 7. 8.25	研 修
"	助教授	西谷 拓哉	アメリカ合衆国 連合王国	言語教育及び英米文化・文学の研究	7. 8.17 8. 8.25	"
"	教 授	須藤 健一	アメリカ合衆国 ミクロネシア連邦 ペラウ共和国	旧統治領南洋群島に残存する日本語・日本文化の調査研究	7. 8.21 7.10. 8	出 張
"	"	鎗木 誠	アメリカ合衆国	日米科学協力事業セミナー「スピンの計算物理における新展開」出席	7. 8.26 7. 9. 2	研 修
発達科学部	助教授	中山 修一	連合王国 フィンランド フランス	英国近代デザイン史の研究	7. 8. 1 8. 5.31	出 張
"	教 授	尼川 大作	連合王国	第4回国際比較生理生化学会議出席及び比較生理学研究資料収集	7. 8. 6 7. 8.15	研 修
"	助教授	川畑 徹朗	オーストラリア	西オーストラリア州におけるライフスキルを基礎とする健康教育プログラムに関する情報収集	7. 8. 8 7. 8.18	"
"	"	高橋 正	中華人民共和国	第1回アジア計算機数学シンポジウムにて講演のため	7. 8.17 7. 8.20	"
"	教 授	濱口 八朗	スイス ドイツ アメリカ合衆国	第7回熱流体工学に関する国際会議出席及び熱流体工学に関する研究交換	7. 8.23 7. 9.19	出 張
"	助教授	寺門 靖高	アメリカ合衆国	第3回ハットンシンポジウム出席及び同位体地質学に関する資料収集と研究打合せ	7. 8.28 7. 9.19	研 修
"	"	朴木佳緒留	中華人民共和国	世界女性会議NGOフォーラム出席	7. 8.29 7. 9. 5	"
法 学 部	"	飯田 文雄	アメリカ合衆国	アメリカ政治理論に関する文献収集及びアメリカ政治学会出席	7. 8.15 7. 9. 4	"

法 学 部	教 授	藤原 明久	カナダ	国際歴史学第18回大会国際法制史会議出席	7. 8.26 7. 9. 4	出 張
"	助教授	小泉 直樹	アメリカ合衆国	電気通信と法政策に関する研究について資料収集	7. 8.29 7. 9. 3	"
"	教 授	久米 郁男	"	アメリカ政治学会年次大会にて報告発表のため	7. 8.30 7. 9. 4	研 修
経済学部	助 手	青木 浩介	アメリカ合衆国 カナダ	企業の投資行動とそのマクロ経済への効果の研究	7. 8.10 9. 8. 9	"
"	助教授	加藤 弘之	中華人民共和国	中国地域経済の重層構造とその長期変動に関する研究に係る海外学術調査	7. 8.14 7. 8.27	出 張
経営学部	教 授	吉田 順一	オーストリア	市場文化及び消費文化分析に関する比較研究の打合せ	7. 8. 6 7. 8.27	研 修
"	"	加護野忠男	連合王国 ドイツ	経営戦略についての研究及び研究成果の交流	7. 8.25 7. 9.25	"
理 学 部	"	赤坂 一之	スリランカ	コロombo大学における技術協力	7. 8. 6 7. 8.27	出 張
"	"	曾谷 紀之	"	"	"	"
"	"	向井 正	アメリカ合衆国	惑星間塵雲の軌道運動の研究及び国際天文連盟コロキウム出席	7. 8.13 7. 9.17	"
"	助教授	新井 正敏	連合王国	中性子散乱実験	7. 8.14 7. 9.15	研 修
"	"	郡司 幸夫	ドイツ	国際サイバネティクス会議出席	7. 8.15 7. 8.22	"
"	教 授	佐々木 武	ベルギー	アファイン微分幾何に関する共同研究	7. 8.16 7. 9.23	"
"	助教授	瀬恒潤一郎	アメリカ合衆国	アメリカ化学会第210回年次大会出席	7. 8.19 7. 8.26	出 張
"	助 手	戎 健男	スイス	第6回低温検出器国際ワークショップ出席	7. 8.26 7. 9.11	研 修
"	助教授	野崎 光昭	イタリア	第24回宇宙線国際会議出席	7. 8.29 7. 9. 9	出 張
医 学 部	教 授	斎藤 洋一	中華人民共和国	第7回日中消化器外科学術交流会議開催打合せ及び消化器外科学に関する研究交換	7. 8. 2 7. 8. 8	研 修
"	助教授	西尾 久英	インドネシア	インドネシアに多発するグルコース6リン酸脱水素酵素欠損症に関する調査	7. 8. 2 7. 8.11	出 張
"	教 授	西山 馨	"	熱帯地域における周産期医学に関する研究；グルコース6リン酸脱水素酵素欠損症に関する共同研究	7. 8. 2 7. 8.11	"

医 学 部	助 手	白川 卓	インドネシア	熱帯地域における周産期医学に関する研究；グルコース6リン酸脱水素酵素欠損症に関する共同研究	7. 8. 2 7. 8.11	出 張
"	助教授	船原 芳範	タイ インドネシア	サラセミア症の研究及びマラリア感染患者の病態生理学的研究	7. 8. 2 7. 8.31	"
"	"	片岡 陳正	インドネシア	慢性下痢症に関する臨床病理学的並びに疫学的研究	7. 8. 3 7. 8.24	"
"	教 授	堀田 博	タイ	東南アジア地域に存在するC型肝炎ウイルス変異株の解析	7. 8.10 7. 8.15	"
"	"	岡田 安弘	ドイツ スイス	神経生理学（記憶機構）に関する研究打合せ	7. 8.13 7. 9. 4	"
"	"	川端 真人	ベトナム ラオス	ベトナムのマラリア伝播に関する研究	7. 8.16 7. 9. 5	"
"	"	前田 盛	インドネシア	論博研究者の研究指導	7. 8.19 7. 8.25	"
"	助 手	平田 まり	タイ	タイ南部地域における種々の疾患頻度の基本調査	7. 8.19 7. 9. 2	"
"	講 師	近藤 隆	ドイツ	第10回国際放射線研究会議出席及び放射線基礎医学に関する研究交換	7. 8.25 7. 9. 6	研 修
"	助 手	松尾 裕文	オーストラリア	眼科分子生物学に関する研究	7. 8.26 8. 3. 3	"
"	講 師	具 英成	大韓民国	第4回アジア移植学会出席	7. 8.27 7. 8.31	出 張
"	助教授	黒田 嘉和	"	第4回アジア移植学会出席及び発表	"	"
"	教 授	奥村 勝彦	スウェーデン オーストリア	第55回国際薬学会議及び第4回国際TDM学会出席並びに薬剤学に関する研究交換	7. 8.27 7. 9.10	"
"	助 手	宮崎 茂典	アメリカ合衆国	尿路感染症における意見交換	7. 8.29 7. 8.31	研 修
工 学 部	教 授	藤井 進	イスラエル フランス	第13回経営工学国際会議出席及び生産システムの自動化に関する研究交換	7. 8. 3 7. 8.15	出 張
"	助教授	田所 論	アメリカ合衆国	1995年知能ロボットとシステムに関する国際会議出席及び研究資料収集	7. 8. 3 7. 8.12	"
"	教 授	竹内 寛	スリランカ	コロombo大学における技術協力	7. 8. 6 7. 8.27	"
"	助教授	道奥 康治	中華人民共和国	水需給・環境平衡に果たす水源貯水池の役割に関する研究交換及び研究資料収集	7. 8. 9 7. 8.12	"
"	教 授	高田 至郎	アメリカ合衆国	国際会議出席及び研究資料収集	7. 8. 9 7. 8.17	研 修

工 学 部	教 授	櫻井 春輔	タイ	地盤力学に関する研究交換	7. 8. 9 7. 8.12	研 修
"	助教授	竹中 信幸	アメリカ合衆国	アメリカ機械学会・日本機械学会流体工学国際会議出席及び研究資料収集	7. 8.13 7. 8.18	出 張
"	"	中山 昭彦	"	国際シンポジウム出席及び研究交換	7. 8.13 7. 8.28	研 修
"	教 授	角田 譲	イタリア	科学基礎論学会国際会議出席	7. 8.18 7. 8.27	"
"	"	上田 完次	オランダ フィンランド	第45回国際生産加工研究会議出席及び研究交換	7. 8.18 7. 8.28	出 張
"	"	高田 至郎	中華人民共和国	ライフライン地震防災に関する日中研究討論会出席	7. 8.20 7. 8.22	研 修
"	"	森脇 俊道	オランダ	第45回国際生産加工研究会議出席及び研究交換	7. 8.20 7. 8.25	"
"	助教授	社本 英二	"	生産・製造に関する国際会議出席及び研究資料収集	7. 8.20 7. 8.26	出 張
"	教 授	中前 勝彦	アメリカ合衆国	国際共同研究討論、セミナー出席及び高分子化学に関する研究資料収集	7. 8.24 7. 8.30	"
"	"	出来 成人	中華人民共和国	第46回国際電気化学学会出席及び無機溶液化学に関する研究交換	7. 8.26 7. 8.30	"
"	"	荒井 建次	オーストリア	第9回高電圧工学国際会議出席及び研究資料収集	7. 8.26 7. 9. 3	研 修
"	助 手	竹堅 裕正	"	"	"	"
農 学 部	助教授	鈴木 創三	スイス	土壌生態学に関する研究交換	7. 8. 1 7. 8.14	"
"	教 授	大川 秀郎	連合王国 ブルガリア フランス	国際純正応用化学連合第38回全体会議出席、植物バイオテクノロジーに関する研究交換及び遺伝子組換え植物に関する研究交換	7. 8. 4 7. 8.15	出 張
"	助教授	竹田真木生	連合王国 チェコ	第4回国際生理生化学会発表及び共同研究並びに第2回欧州無脊椎動物生理生態学ワークショップ発表	7. 8. 6 7. 9.16	"
"	教 授	保田 茂	大韓民国	韓国における有機農業の展開状況に関する実態調査及び研究会出席	7. 8. 7 7. 8.13	"
"	助教授	高田 理	"	"	"	"
"	"	内田 一徳	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学にて土質力学関係共同研究の実施	7. 8. 9 7. 8.23	"
"	"	内田 直次	フランス	第10回国際光合成学会出席及び発表	7. 8.18 7. 8.28	研 修

農 学 部	助 手	金地 通生	フランス	第10回国際光合成会議参加及び発表	7. 8.20 7. 8.30	研 修
"	助教授	青木 健次	ブラジル	第7回国際微生物生態学シンポジウム出席及び発表並びに微生物によるバイオレメディエーションに関する研究交換	7. 8.25 7. 9. 8	出 張
"	"	内田 一徳	中華人民共和国	国際土質基礎工学会第10回アジア地域会議 (10.ARC) 出席	7. 8.28 7. 9. 8	"
自然科学 研 究 科	教 授	安藤 四一	ドイツ イタリア	室内音響学に関する資料収集及びイタリア音響学協会第23回会議出席	7. 8. 1 7. 9.17	研 修
"	"	薦原 道久	アメリカ合衆国	日米機械学会流体工学部門合同講演会出席及び流体工学に関する研究交換	7. 8.11 7. 8.24	出 張
"	助 手	鶴見 誠二	オーストラリア	クロモサボニンの生理的役割に関する研究を行うため	7. 8.17 7.11.16	研 修
国際協力 研 究 科	助教授	岡本由美子	マレーシア フィリピン	「APEC経済政策」受託研究に係る調査研究	7. 8. 1 7. 8.17	出 張
"	教 授	本台 進	アメリカ合衆国 ポーランド ハンガリー	「東欧における経済改革以後の農業と環境政策」に関する調査研究	7. 8. 8 7. 8.26	"
"	助教授	高橋 基樹	パキスタン	外務省委託「経済協力計画策定のための基礎調査——国別経済協力計画(パキスタン)」に係る現地調査	7. 8.14 7. 8.28	"
経済経営 研 究 所	"	延岡健太郎	アメリカ合衆国 カナダ	「アカデミー・オブ・マネージメント・ミーティング」にて研究発表及び製品開発について共同研究	7. 8. 6 7. 8.18	研 修
"	"	マクリアリ, ロバート ケネス	アメリカ合衆国	北米フォーラムに参加	7. 8.13 7. 9. 1	"
"	教 授	西島 章次	ブラジル アメリカ合衆国	「産業政策協力研究：ブラジル」について調査研究及び国際シンポ「第3世界における日米の役割」出席	7. 8.16 7. 9. 4	出 張
"	"	石垣 健一	アメリカ合衆国	国際シンポ「第3世界における日米の役割」出席及び米国経済に関する資料収集	7. 8.30 7. 9. 9	研 修
"	"	吉原 英樹	"	国際シンポ「第3世界における日米の役割」出席及び国際経営に関する研究調査	7. 8.31 7. 9. 7	"
バイオン グ ナル 研 究 セ ン ター	"	川井 浩史	オランダ ドイツ フランス	褐藻類の生活史に関する共同研究・採集	7. 8.17 7. 8.31	出 張

学 事

◇平成7年度文部省在外研究員派遣予定者の決定（追加）

種類	所 属	氏 名	派遣期間	調 査 研 究 題 目
長（若）	工学部	社 本 英 二	10 か 月	フライス加工における切削力予測モデルの構築と加工状態の認識
手（期）	農学部	阪 口 秀	"	Cosserat連続体理論に基づくFEM やDEM及びCAによる粒状体の堆積・圧縮・流動に関する局所化理論の研究

◇平成7年度海外研究開発動向調査等に係る在外研究員派遣予定者の決定

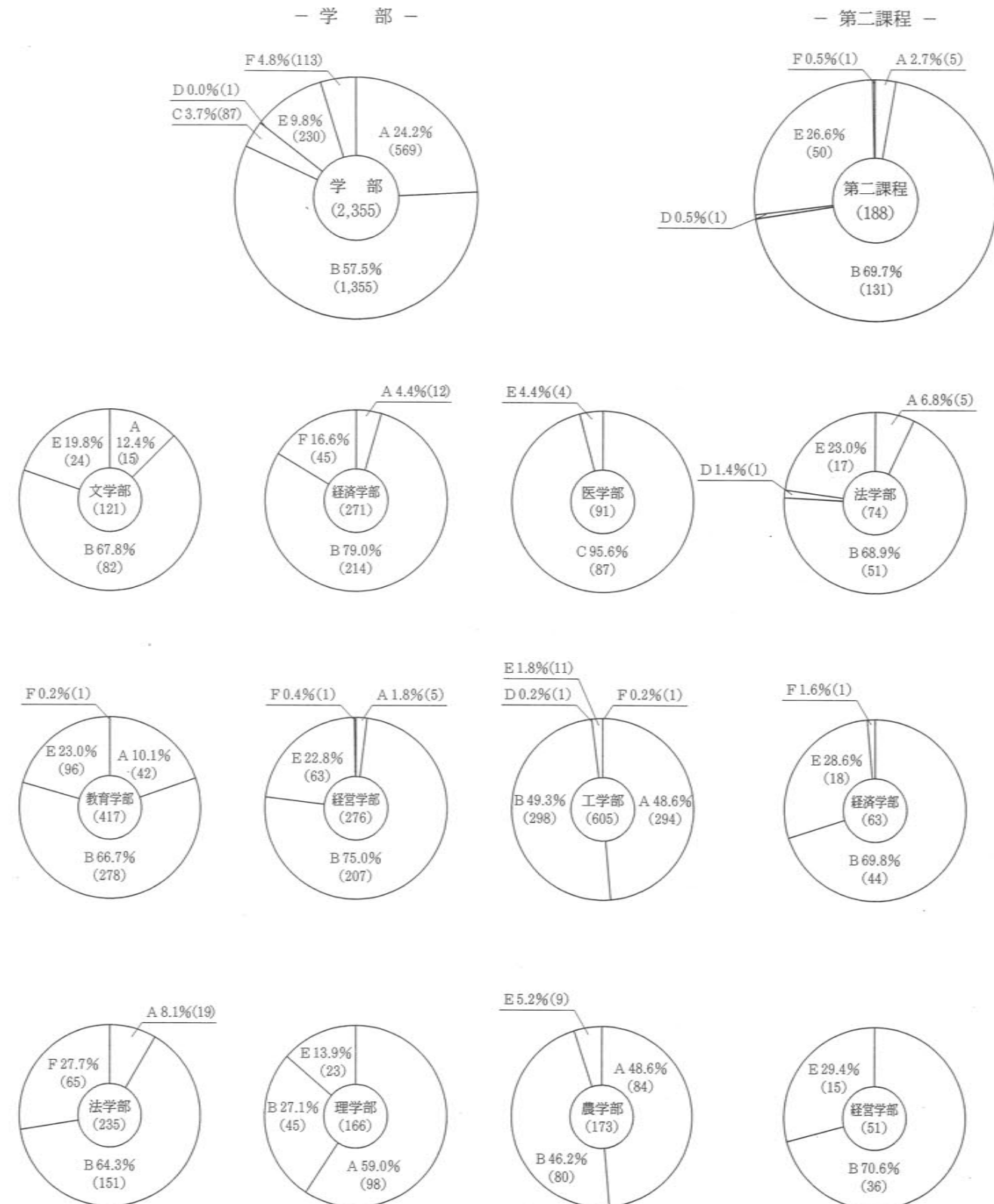
この派遣は、大学院や大学学部における国際的な共同研究、教育研究の国際交流を積極的に推進するために、世界の最新の研究開発の動向に接する機会を設け、研究者の海外派遣を行う目的で、平成7年度補正予算で措置されたものです。

所 属	氏 名	派遣期間	調 査 研 究 機 関	調 査 研 究 題 目
国際文化学部	三 浦 伸 夫	6 か 月	ロンドン大学 ウォーパーク研究所 (イギリス)	科学技術の受容問題の調査研究
"	沖 原 勝 昭	"	オックスフォード大学 (イギリス)	日本人学生対象の英語コース設計と教材開発
"	三木原 浩	"	パリ第八大学 (フランス)	ロマン・ロラン文献及び民衆歌謡の実証的研究
発達科学部	高 田 義 弘	"	American Sports Medicine Institute (アメリカ)	バイオメカニクスの及び生理学的手法を用いた 投手の障害予防法開発に関する研究
経済学部	萩 原 泰 治	"	マンチェスター大学 (イギリス)	技術革新過程に関する理論的・実証的研究
理学部	壁 谷 喜 継	"	ミネソタ州立大学 (アメリカ)	連立楕円型および放物型方程式の解の挙動に関する実証的研究
医学部 附属病院	藤 岡 宏 幸	"	バージニア大学 ヘルスサイエンスセンター (アメリカ)	骨形成、骨壊死および軟骨修復過程の生化学的 解析
農学部	竹 田 真木生	"	ブランダイス大学 (アメリカ)	生物リズムの神経生理および分子生物学的研究
農学部 附属農場	保 坂 和 良	2 か 月	コーネル大学 (アメリカ)	分子マーカーを利用した新しいバレイショ育種 技術の開発動向調査
自然科学 研究科	沼 昌 宏	5 か 月	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校 (アメリカ)	論理設計支援技術の調査研究
"	笠 原 俊 二	2 か 月	カイザーラウテルン大学 (ドイツ)	高分解能レーザー分光による気体分子の励起状態 に関する研究
留学生 センター	瀬 口 郁 子	"	ピッツバーグ大学 (アメリカ)	留学生を受け入れる環境の整備に関する研究開 発動向調査
"	實 平 雅 夫	1 か 月	ハイデルベルグ大学 (ドイツ)	ドイツの大学における留学生センター及び国際 交流活動に関する最新の研究開発動向調査研究

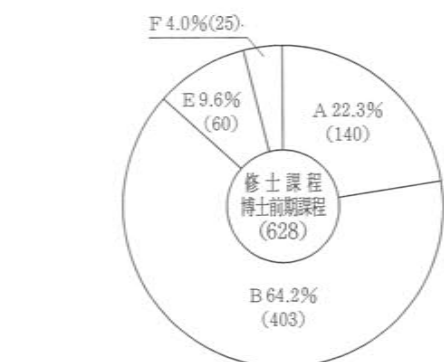
◇平成6年度神戸大学卒業生の卒業後の状況調査 (平成7年5月1日現在)

進学者(大学院研究科等)	A	一時的な仕事に就いた者	D
就 職 者	B	無 業 者	E
臨 床 研 修 医	C	そ の 他	F

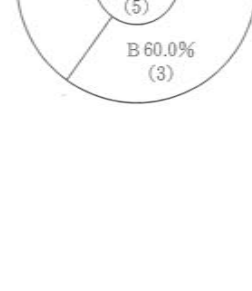
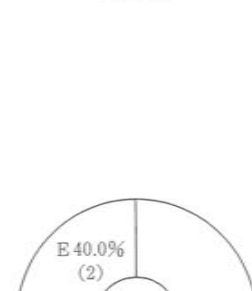
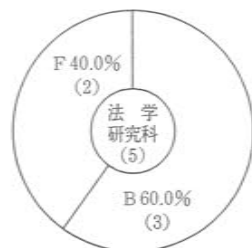
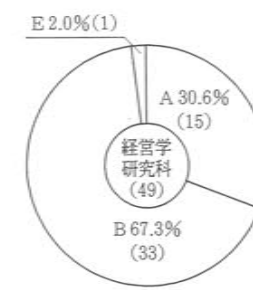
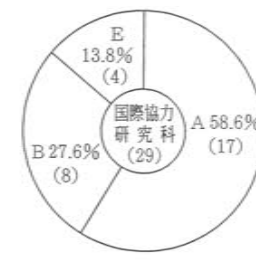
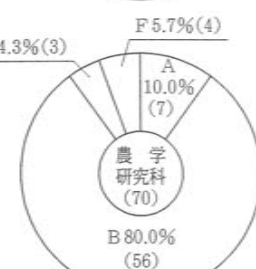
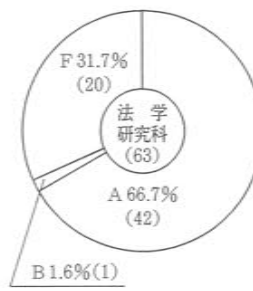
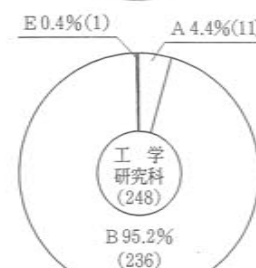
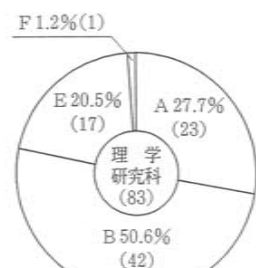
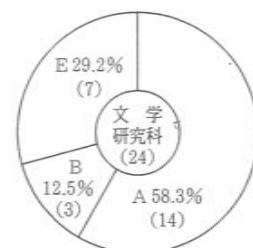
グラフの中の()は人数を示す。上記の区分は学校基本調査による。



— 修士課程 —
(博士前期課程を含む。)

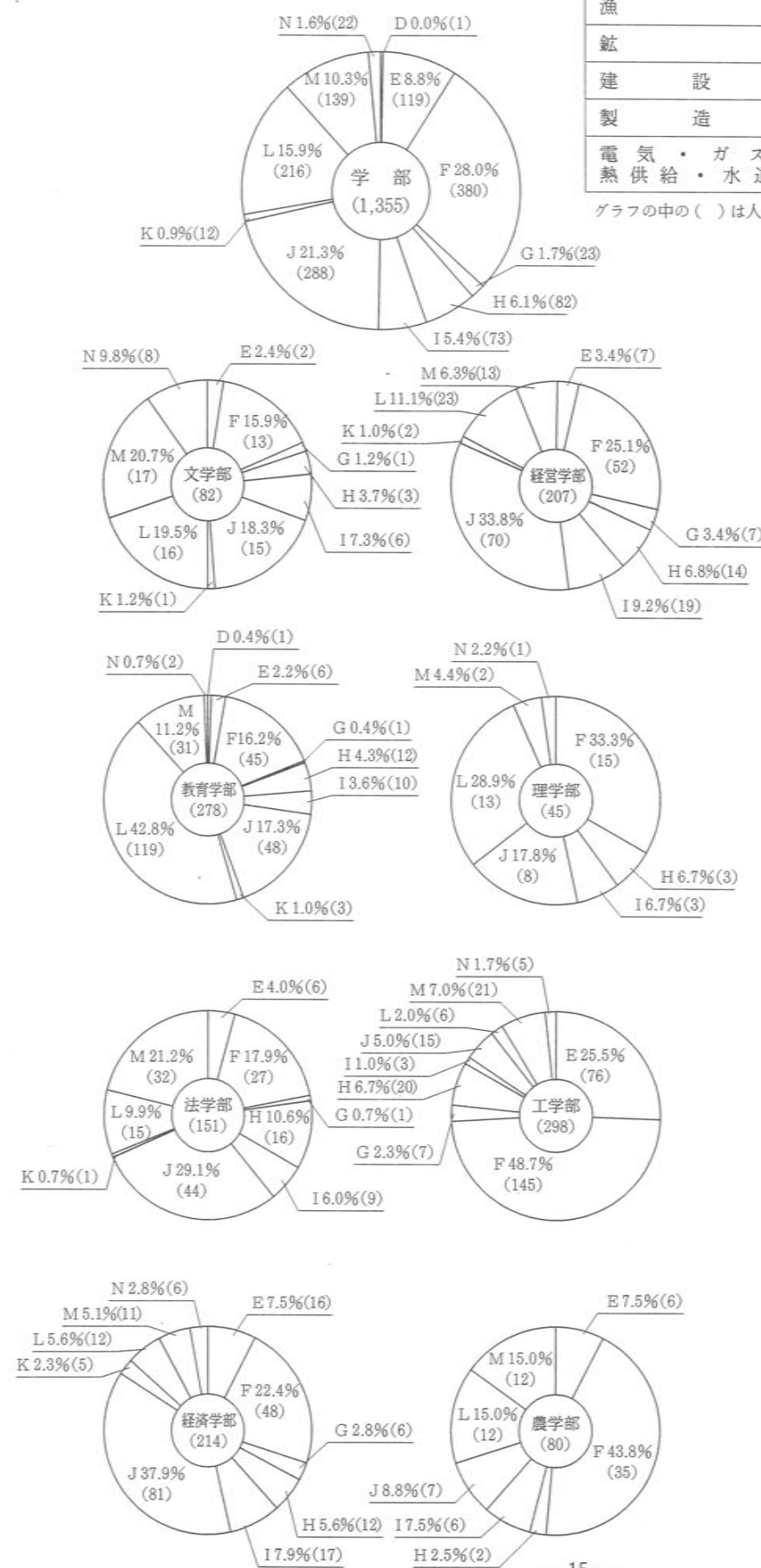


— 博士課程 —
(博士後期課程を含む。)



◇平成6年度神戸大学卒業者の就職状況調 (産業別)

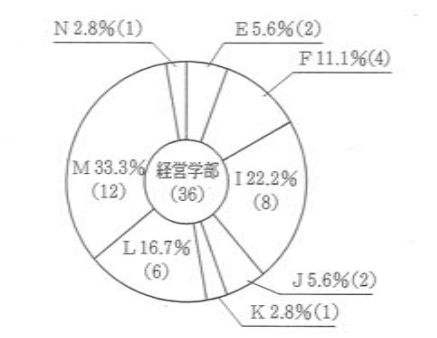
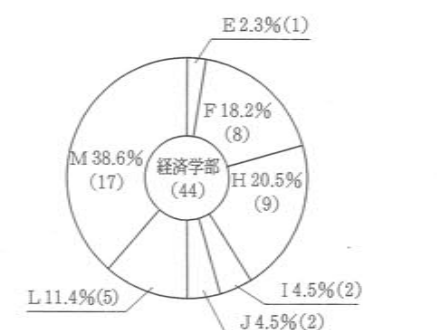
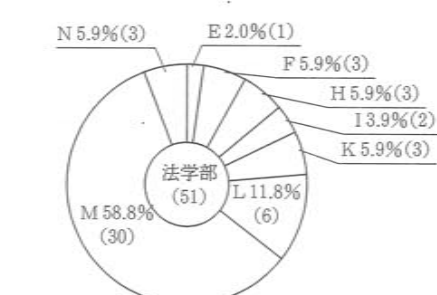
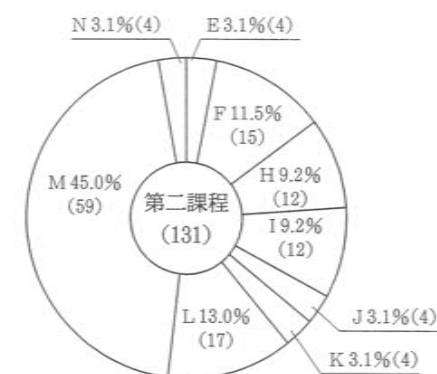
— 学部 —



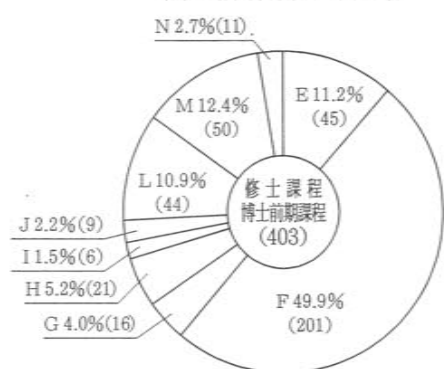
農	業	A	運輸・通信業	H
林	業	B	卸売・小売業・飲食店	I
漁	業	C	金融・保険業	J
鉱	業	D	不動産業	K
建設	業	E	サービス業	L
製造	業	F	公務	M
電気・ガス・熱供給・水道業	G	その他	N	

グラフの中の () は人数を示す。上記の区分は学校基本調査による。

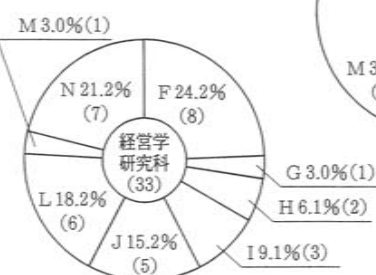
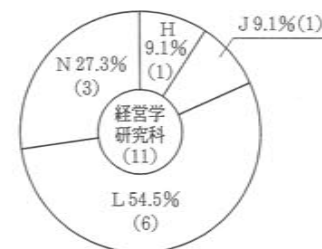
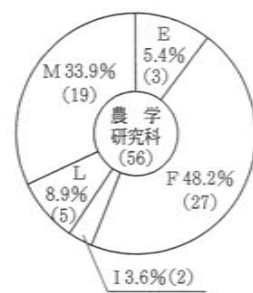
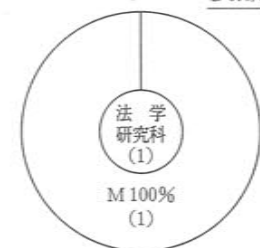
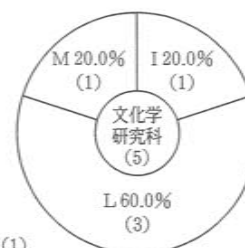
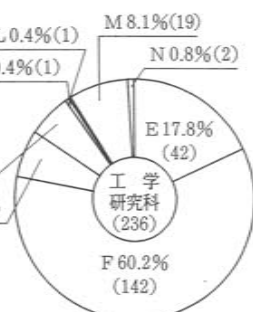
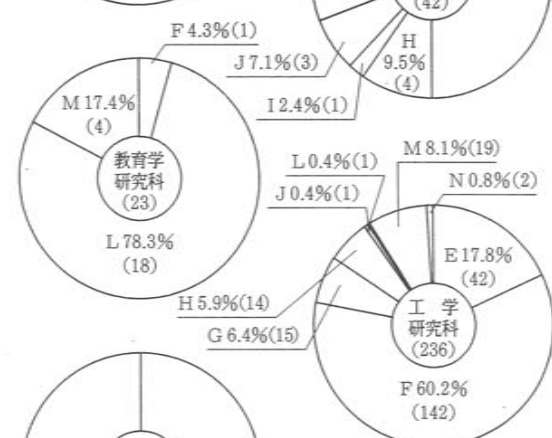
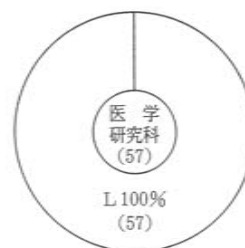
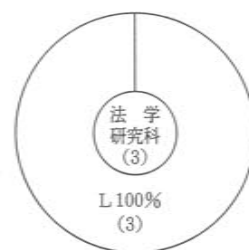
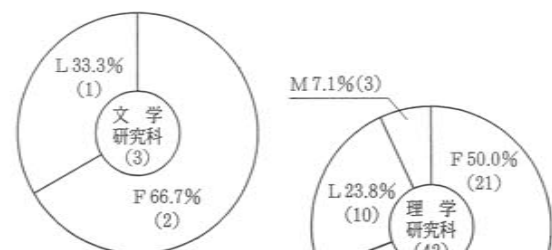
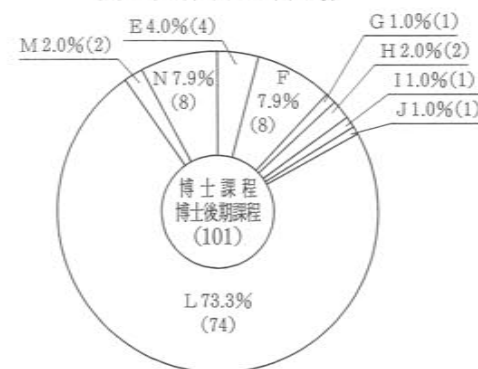
— 第二課程 —



－ 修士課程 －
(博士前期課程を含む。)



－ 博士課程 －
(博士後期課程を含む。)



掲 示 板

◇職員の住所変更等
・住所・住居表示変更

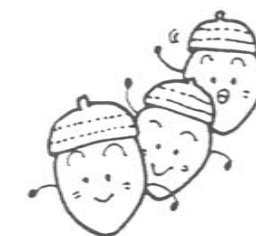
P.15

P.96

◇日 誌

(平成7年8月)

8月26日(土) 学内レクリエーション「魚釣大会」



神戸大学100年史編集室だより

——歴史のひとこま——

前身校の歴史—神戸高等商業学校における課外

活動について（その14）—

大正4年に生まれた神戸高商山岳会は、同7年1月より神戸高商登山部と改称し、大正9年末に開催された学友会総会において、ついに学友会の独立した1つの部として承認され、翌10年度から学友会予算の割当を受けることとなった。こうして正式に学友会の一メンバーに加わって以降の登山部の活動を見てみよう。

独立第1年目である大正10年の夏には、富士登山と六甲山観月夜営を行っている。富士登山については、この時の旅日記が『学友会報』に掲載されているので、それによって当時の行程をみると、メンバーは19名で7月14日夜神戸を出発し、翌15日午前5時頃静岡に到着している。富士登山は、16日午前2時起床、4時に宿屋を出て、一合目には8時5分に到着し扇子にはスタンプ、金剛杖には「表口一合目」という焼印を押して貰って出発している。三合目で昼食をとり、六～七合目にかけて道が愈々険しくなり、足は自然と金剛杖を頼りにするようになった。

そして七合目を過ぎると、気候が急に変化しにわかに涼気が増し、呼吸も苦しくなり、誰ひとり会話する者がいなくなった。やっとのことで八合目の小屋に巡りついたのが午後の4時頃で、その日にこの小屋に宿泊したのは100人余であったため、畳2畳に7～8人足を突き合せて寝ることとなった。

翌17日午前4時山頂をめざして出発し、九合目を過ぎた辺りで美しい御来光を見、5時25分山頂に到着した。そして8時には下山を始め、須走の急な坂道を砂を蹴って下り、途中で草鞋を履き替えながら僅か40分で須走口六合目に到着し、そこで食事をとり、「天界の冬衣を脱ぎ下界の夏衣に」

着替えて下山している。

またこの年の8月には15日から1週間をかけて六甲山上でテントを張り、「観月夜営」を大阪高等工業学校山岳部や第三高等学校山岳部の部員たちとともにやっている。この時は折からの紀州～九州へ向かう台風の余波を受けて、神戸高商登山部のテントの支柱が折れ、大阪高工山岳部の厚意で同校のテントを借りて急場を凌ぐというハプニングもあった。

ところで大正10年度学友会から登山部へ割当られた予算の額は55円で、庭球部の1,500円余、端艇部の1,155円余あるいは野球部の828円余と他の部と比べ極めて少額であった。しかしこれを補うものとして、登山部には外部からの貴重な援助があった。

それは三井物産会社造船部副部長を勤め、大正11年9月に病気で亡くなった大迫武吉氏の登山部に対する登山奨励金である。どのような契機で大迫氏が神戸高商登山部を援助するようになったのかは詳かではないが、氏はすでに明治44年から亡くなるまで匿名を以って登山部に登山奨励金を送りつづけ、その合計額は1,200円に達していた。それらは年々の登山部のアルプス登山の指導費などに充てられ、大正11年3月現在使用残額が186円余となっていた。これと同氏の遺言によって新たに1,000円の寄付があり、それらを合わせて大正11年11月「故大迫武吉氏記念登山奨励基金」が設立されたのである。

こうした基金の設立などがあって、大正15年4月には従来の神戸高商登山部という名称を神戸高商山岳部と改めるとともに、雪中登山・山岳展覧会・山岳幻燈会・夏季及び秋季の大登山・厳冬鉢伏山麓スキー合宿などバラエティーに富んだ活動が見られるようになるのである。